

両沼地方稲作情報 第6号 【水管理・穂肥・病虫害対策・高温対策】

令和8年7月2日

発行：福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2113)
 // 金山普及所 (電話0241-54-2801)

J A会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店、(有)山一米穀店、
 会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区、袋原土地改良区



← 会津坂下農業普及所のHPでは、これまで発行した稲作情報を掲載しております。
 その他、様々な情報を発信しておりますので、お気軽にご覧ください。

幼穂が出来る時期です。中干しから間断灌漑・飽水管理に移行しましょう。

1 気象情報

- ・**経過** 5～6月の気象は、期間を通じて気温が平年より高く推移し、日照時間は平年並みからやや少なく、降水量はまとまった降雨が断続的にみられました(図1)。
- ・**東北地方1か月予報(6/27～7/26)**
 向こう1か月は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は高い確率50%、降水量は少ない確率40%、日照時間は多い確率40%です。

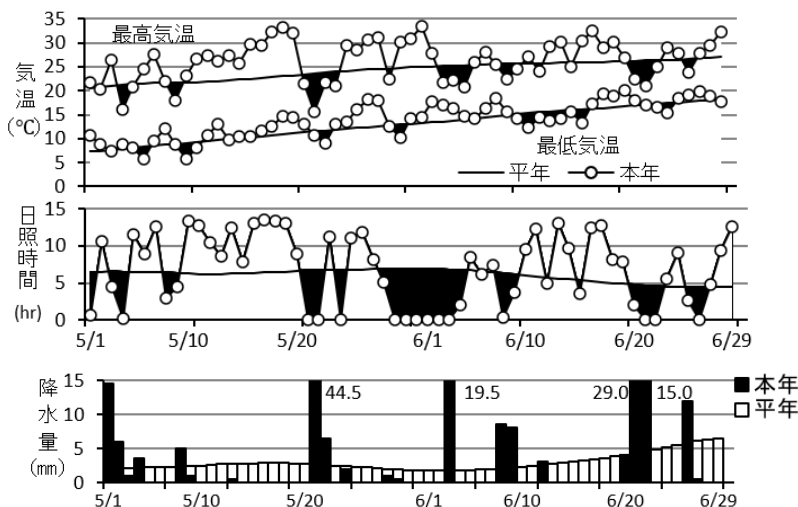


図1 気象の経過(アメダス若松)

2 移植後の生育状況

- ・草丈は全品種でやや低めに推移している一方で、茎数は多い傾向にあり、分けつは旺盛な状況です。葉齢はやや遅れが見られるものの、葉色は概ね良好です。今後は中干しや追肥の適期実施など、生育状況に応じた肥培管理を行うことが重要です。また、気象変動にも留意しながら適切な管理に努める必要があります。(表1)。
- ・湛水直播の生育は平年を下回って推移しているものの、前年を上回る状況にあり、草丈や茎数も概ね確保されています。今後の気象条件によっては生育の回復が見込まれ、穂数の確保も進むことで、収量・品質の安定につながる事が期待されます(表2)。

表1 水稻作柄解析試験(会津地域研究所、6月23日調査)

品種名	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (葉)	葉色 (SPAD値)
コシヒカリ	本年	42.0	718	8.5	41.7
	平年	46.0	670	9.3	41.0
	平年差比	91	107	-0.8	0.7
ひとめぼれ	本年	41.3	778	8.6	44.2
	平年	42.9	656	9.2	43.6
	平年差比	96	119	-0.6	0.6
天のつぶ	本年	41.9	695	8.5	44.1
	平年	46.0	588	8.8	44.1
	平年差比	91	118	-0.3	0.0

注. 5月20日移植、20.8株/m²(30cm×16cm)植え

3 水管理

(1) 当面の水管理

・目標茎数に達した場合

株あたりの必要茎数の目安(コシヒカリ20本、ひとめぼれ25本、天のつぶ20～22本)を確保したら、直ちに中干ししましょう。

表2 作柄判定ほの生育(会津美里町内、湛水直播栽培)

品種	年次	苗立 (本/m ²)	6月20日調査			
			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈出葉 (葉)	葉色 (SPAD値)
コシヒカリ	本年	64.2	32.9	392	7.2	36.1
	前年	45.0	34.2	355	7.2	43.9
	平年	71.6	37.8	507	7.6	39.7
	平年差比	89	87	77	-0.4	-3.6

注. 点播、4月30日播種

・茎数が不足している場合

浅水管理（水深3cm程度）で分けつを促すとともに、土壌還元対策が必要な場合は、一時落水を併用して、茎数の確保を図りましょう。

7月は高温に注意が必要です。対策を徹底し、品質低下を防ぎましょう。

- ◆ **水管理** 間断かんがい、飽水管理（ひたひた水、足跡や溝切跡に水が溜まっている状態）で管理し、根の活力維持と地温上昇を防ぎましょう。
- ◆ **カメムシ防除** 畦畔雑草や水田内雑草の除草の徹底と、適期の薬剤防除を組み合わせることで斑点米カメムシ被害を防止しましょう。

※本年も高温による被害の発生が懸念されていますが、局地的・時期的には低温による被害の可能性も否定できません。このため、高温・低温の双方に注意が必要です。特に低温時には、深水管理などの対策を実施してください。

(2) 中干し後の水管理

- ・中干し後は、間断かんがい、飽水管理（ひたひた水状態）で管理しましょう（図2）。土壌に酸素が供給され、根の活力維持とともに、地温上昇が抑えられます。高温下で長期間の湛水は、根腐れの原因になるため注意が必要です。
- ・幼穂形成期から出穂後30日までは、イネが水を必要とする時期です。特に登熟期前半（出穂後20日間程度）に高温が続く場合は、白未熟粒による品質低下に繋がりますので水を切らさないようにしましょう。
- ・なお、中干しが行えなかったり、十分にできなかった場合は、時々、走水させながら、7月末（出穂時期前）までに徐々に土壌を乾かすようにしましょう。

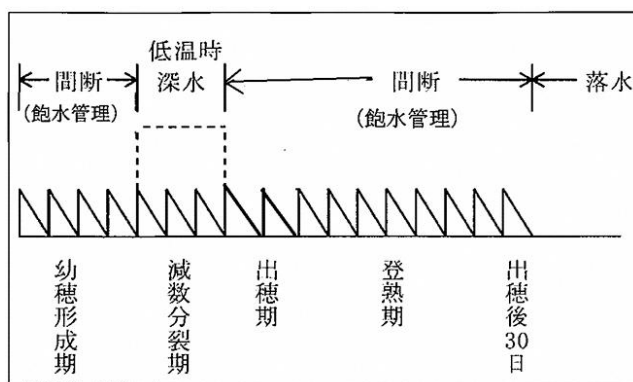


図2 中干し後～出穂後30日までの水管理

4 穂肥

- ・出穂25日前の生育を確認して、草丈が長く葉色が濃いほ場は、穂肥の量を減らすか、施肥時期を少し遅らせましょう（表3に穂肥の目安）。
- ・基肥一発肥料を使用している場合、極端に葉色が低下しているほ場を除き、穂肥は必要ありません。

表3 主な品種の穂肥目安

品種名	時期	窒素成分量
ひとめぼれ 天のつぶ	出穂前25日前	2kg/10a
コシヒカリ	出穂前15日前	1.5～2kg/10a

5 病虫害対策

本年も高温により県内全域で斑点米カメムシ（図3）の発生量が増加することが懸念されています。

斑点米カメムシ対策

- ・出穂間際の畦畔草刈りはカメムシをほ場へ追い込むため、出穂10日前までには草刈りを終えましょう。
- ・散布剤による防除は、乳熟期（出穂7～10日後）の散布を基本とし、その後発生が予想される場合は7日おきに追加散布しましょう。
- ・粒剤（水面施用剤）による防除は、穂揃期～乳熟期を目安に散布して、7日間、止水期間とします。
- ・出穂の早いほ場に加害が集中しやすいため、早生品種や移植時期の早いほ場では注意が必要です。
- ・「天のつぶ」や「里山のつぶ」等、割れ糲の発生しやすい品種は加害されやすいため注意が必要です。



上 アカスジカスミカメ
左 アカヒゲホドリカスミカメ
右 ホソハリカメムシ

図3 会津地域の主な斑点米カメムシ

- 無人ヘリコプター等での農薬散布には実施計画書等の提出が必要です。（詳しくは普及所まで）
- こまめな休息と水分補給を行い、熱中症を防ぎましょう。
- 適切な水管理で節水に努め、用水の有効利用にご協力をお願いします。